

専門委員の変更について

○ 専門委員（経済・テクノロジー委員）

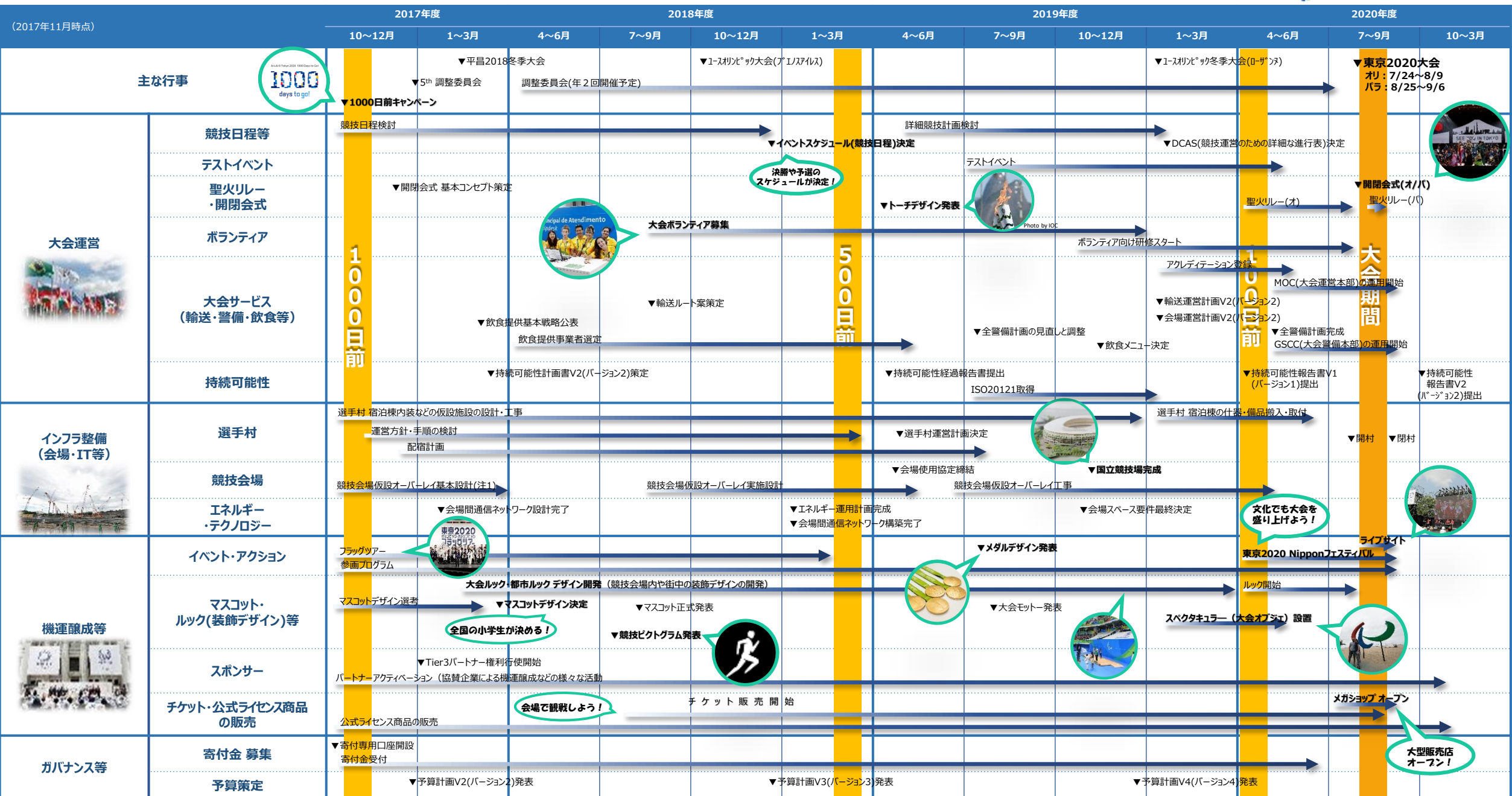
新	旧	新委員 所属先役職等
深沢 和広	伊勢 清貴	トヨタ自動車 常務理事（先進技術開発カンパニー〈技術シナリオ担当〉）



Road to Tokyo 2020 ～ オールジャパンでの成功に向けて ～



資料 2 続き



注 1) 仮設オーバーレイとは、会場を大会使用可能な状態にするための仮設の基礎構造・設備、装置、装具及び機器を指す。

※記載のスケジュールは過去大会等を参考にした目安です。



東京2020大会の準備状況／ 東京2020参画プログラムの現状

東京2020大会の準備状況について

1. ONE TEAM PROJECT
2. 日本の木材活用リレー
3. 開会式・閉会式
4. IOC調整委員会公式夕食会（被災地の食材利用）
5. 平昌2018大会期間中の主な広報活動
6. Road to Tokyo 2020

1. ONE TEAM PROJECT

ONE TEAM PROJECT

日本を代表するクリエイター&イノベーターが一丸となって
東京2020大会を盛り上げるプロジェクト

■ 8月24日より始動、第1弾コンテンツは市川海老蔵氏による「東京2020三年前口上」動画

- ・ 海老蔵氏にご自身のブログでご紹介いただいたこともあり、公開から3日でYouTube再生回数が20万回突破
- ・ 公開翌日はYouTube日本の急上昇ランキングで全動画中**1位を獲得**
- ・ 蜷川実花理事によるSPECIAL PHOTOも話題化を増幅させ、テレビやスポーツ紙および多数Webメディアが紹介



Photo by Mika Ninagawa

- 第2弾：野村萬斎氏と清水希容選手による対談動画を公開
- 第3弾：YOSHIKI氏と山中伸弥氏による対談動画を公開
- 第4弾：高橋陽一氏への特別インタビューを公開
- 第5弾：野老朝雄氏と松井冬子氏による対談動画を公開
- 第6弾：林真理子氏のエッセーを鈴木亮平氏が朗読
- 第7弾：ISSで活躍中の宇宙飛行士金井宣茂氏による宇宙からのメッセージ（予定）

2. 日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

- 全国の自治体から借り受けた木材を使用してビレッジプラザを建設し、大会後に解体された木材を各自治体の公共施設などでレガシーとして活用するプロジェクトを実施



42事業協力者（63自治体）を決定



選手村ビレッジプラザの外観イメージ（上記イメージは、計画途中のものであり、今後変更となる可能性があります）

3. 開会式・閉会式

1. 基本コンセプト

東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト最終報告

第一章 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の位置づけ

歴史的意義	大会全体の歴史的・社会的意義	社会的意義
東京1964大会は戦後復興の象徴や経済成長や科学技術の発展の契機となり、経済的・物量的に豊かになり、また、障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促すきっかけとなった。 東京2020大会では、50年後、100年後に振り返った際に、心が豊かな幸せな社会、持続可能な社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わる契機となることが求められている。		世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの意義に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などのナショナリズムを超え、障がいの有無にかかわらず、若者を含め皆の参加意識を高め、一体感を醸成することで、世界平和を祈り貢献し続けていくことを目指す。また、アジアの発展と繁栄のために、世界にメッセージを発信していく。

大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

3. 開会式・閉会式

1. 基本コンセプト

第二章 開会式・閉会式の全体コンセプト

【平和】和を尊ぶ考え方が、分断や対立を超えた世界につながることを示す。

- 世界中の国・地域のアスリートと観客が一堂に集い、分断や対立を超える機会とする。
- 各々の価値観を押し付けることなく、互いに尊重し合うことで調和を図り、積極的に平和をつくり上げていく姿勢を示す。

【共生】多様な違いを認め合い、支え合い、活かし合うことで、新しい価値を生み出す共生社会を目指すことを示す。

- 一人ひとりが異なる存在であり、お互いを認め合い、支え合う寛容さを持つことが、大切であることを示す。
- 異なる存在が交流し、互いに活かし合うことで、新たな価値が生まれ、よりよい社会につなげていく。

【復興】自然災害を乗り越え、諦めることなく次代を創ろうとする姿を示し、世界の人々への勇気へとつなげる。

- 人間も自然の一部であるという考えに立ち、自然に対する畏敬の念を大切にする。
- 繰り返し訪れる自然災害から復興していく過程において、よりよい社会を創ろうとする人間の強さを示し、世界中の被災者の方々へ勇気を伝播する。

【未来】持続可能で、人間性豊かな、新しい時代のスタートラインとする。

- これから100年の視野を持って、世界中の若者に未来への夢と希望を抱かせるまたとない機会である。
- 地球という限られた環境の中で、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく時代のはじまりを示す。

【日本・東京】歴史の中で培われ、今も生きる日本・東京の美しい感性を大切にする。

- 日本・東京が過去から現代に引き継いできた、しなやかさや美しさを大切にして表現に活かす。
- 日本国内からの視点だけではなく、海外からの視点も取り入れ、世界の人々が日本を楽しむことができるようにする。

【アスリート】スポーツの祭典として、主役のアスリートが安心して参加できる式典を目指す。

- 式典の主役はアスリート。開会式は世界中のアスリートを歓迎、鼓舞し、閉会式は競技を終えたアスリートの健闘を称え、国を超えた交流の輪が広がる場とする。
- アスリートが安心して開会式・閉会式に参加できるよう、空間的、時間的にもコンパクトな式典運営を心がける。

3. 開会式・閉会式

1. 基本コンセプト

第二章 開会式・閉会式の全体コンセプト（つづき）

【参画】多くの人々が自分も式典に関わっていると感じられるような、みんなでつくる式典を目指す。

- 多くの人々が、式典づくりやパフォーマンスに参加できる機会をつくることで、多くの交流を生み出す。
- スタジアム内だけで完結させず、テクノロジーなどを活用して、より多くの人に関わることができる仕組みをつくる。

【ワクワク感・ドキドキ感】熱気や興奮が感じられ、一生に一度の体験となるような機会とする。

- メッセージを大切にしながら、観客や視聴者に興奮や驚きを提供する。
- 日本や世界の子どもたちをはじめ、人々の記憶に残る開会式・閉会式を目指す。

第三章 4式典の位置付け

4つの式典を一連の四部作と捉え、起承転結となるよう、メリハリを付けて構成する。

（起）オリンピック開会式

- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の扉とする。
- ・国内外からの注目度が最も高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・大会の歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトも活かしていく。

（承）オリンピック閉会式

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、会場を一体化する。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。
- ・次の世代に受け継いでいくべき価値を示す。

（転）パラリンピック開会式

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市である。
- ・互いに認め合い、助け合う共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

（結）パラリンピック閉会式

- ・東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレである。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

3. 開会式・閉会式

「東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム」について

- 今般の基本コンセプトにある“4式典を一体と捉えた”基本プランを作成していくため、「東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム」を設置。
- まずは基本プランを策定した上で、来夏に4式典の監督を選定し、各々制作に入っていく。

1. 基本的な考え方

- 基本コンセプトにおいて、オリンピック開会式からパラリンピック閉会式までの4つの式典を、バラバラではなく、一連の四部作ととらえていくとの方針が盛り込まれた。
- まずは、この4式典全体のプラン・ストーリーを作る体制を立ち上げることとしたい。
- その際、一個人に頼るのではなく、チームでの力を活かすとともに2020年以降も世界で活躍する世代を積極的に活用していきたい。
- 上記の考えのもと、以下の観点でチームの人選を進めた。
 - 4式典全体のプランを作り上げていくに当たり、式典が舞台的要素だけでなく、世界中にテレビ・WEBを通じて放映されることから、映画制作に携わり、映像とストーリーを統合できる人材が必要ではないか。
 - 基本コンセプトにある日本・東京の伝統を演出できる人材、また、共生・パラリンピックを表現できる人材が必要ではないか。
 - 内外の評判を得たリオ大会のハンドオーバーのチームの知見も活用すべきではないか。
- 4式典の監督選定に先立ち、総合プランニングチームを立ち上げるのは、東京2020大会ならではの新しい試み。

3. 開会式・閉会式

2 チーム編成

次ページ参照

3 役割

以下の事項について検討し、基本プランとしてとりまとめるとともに、4式典の一体化を図る。

- (1) 4式典全体で発信するメッセージ・ストーリー
- (2) 各式典それぞれで展開するメッセージ

4 期間

2017年12月～

5 今後のスケジュール

- ・ 2018年夏ごろを目途に、基本プランをとりまとめ、その後各式典の監督を選任する予定。
- ・ 監督は、有識者懇談会及び理事会での審議を経て決定する。

3. 開会式・閉会式

東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム 名簿 (平成29年12月20日時点) (五十音順、敬称略)

氏 名	肩書等
川村 元気	映画プロデューサー/小説家
栗栖 良依	クリエイティブ プロデューサー クリエイティブ ディレクター
佐々木 宏	クリエイティブ ディレクター
椎名 林檎	演出家 音楽家
菅野 薫	クリエイティブ ディレクター クリエイティブ テクノロジスト
野村 萬斎	狂言師
MIKIKO	演出振付家
山崎 貴	映画監督

4. IOC調整委員会公式夕食会（被災地の食材利用）

- 第5回IOC調整委員会の公式夕食会（復興庁、東京都共催）で、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島食材を使用したメニューや地酒などの特産品を提供。
- 東京2020大会に関連する会議やイベントなどで、風評被害の払拭につながる取組を進め、復興に関する継続的な支援につなげていく。



5. 平昌2018大会期間中の主な広報活動

平昌現地 -Tokyo 2020 JAPAN HOUSE-

- 目的： 平昌2018大会時に、現地および世界中のオリンピック、パラリンピックファンに東京2020大会及び開催都市東京の魅力を伝え、2020年大会時の訪日促進につなげるため、Tokyo 2020 JAPAN HOUSEを設置する。
- 主催： 東京2020組織委員会、東京都
- 場所： 江陵オリンピックパーク内に仮設建物を設置
* 平昌地域には、JOCがホスピタリティ提供を主目的としたJAPAN HOUSEを別途設置
- 期間： オリンピック期間 平成30年2月9日から25日、
パラリンピック期間 平成30年3月9日から18日を想定
※メディア内覧会は平成30年2月8日の実施を検討
＜開設時間＞ 12:00～20:00（予定）

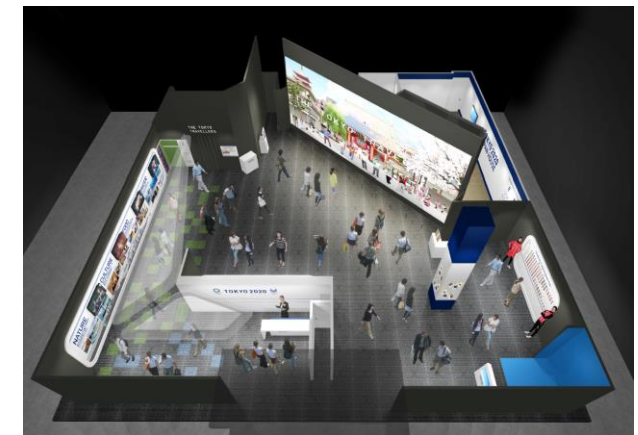
(別会場メインプレスセンター内に東京2020広報オフィスを設置し海外PR)

PyeongChang to TOKYO

つぎは東京!



外観図



内観図
(俯瞰図)

5. 平昌2018大会期間中の主な広報活動

国内 -東京 2020 ライブサイト in 2018 -

- 目的： 東京2020大会におけるライブサイトの実施に向けて、運営・実施方法などの課題への対応を検証するとともに、東京2020大会の機運醸成を図ることを目的として、平昌2018冬季大会の開催とあわせてライブサイトを実施
- 主催： 東京2020組織委員会・東京都
- 実施概要：



リオ2016大会時の国内ライブサイトの様子

オリンピック期間					パラリンピック期間	
2/10（土）～ 2/12（月・祝）	2/17（土）	2/18（日）	2/22（木）～ 2/24（土）	2/24（土）	3/10（土）	3/17（土） 3/18（日）
東京都 井の頭恩賜公園	宮城県 JR仙台駅2階 セントゲラス前	福島県 郡山駅 西口駅前広場	東京都 シンボルプロム ナード公園	岩手県 盛岡駅前 滝の広場	熊本県 (仮称)花畑広場	東京都 日比谷公園
開場時間：10:00～17:00（予定）						

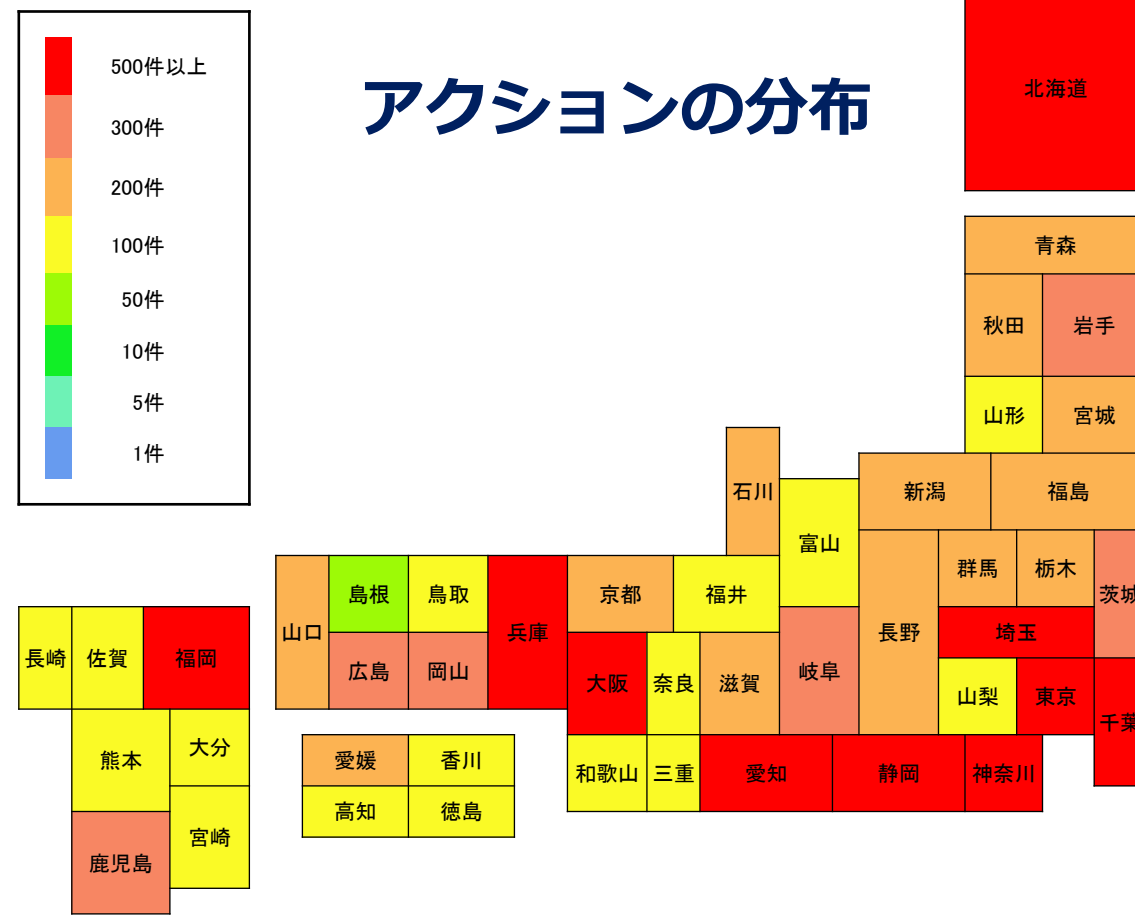
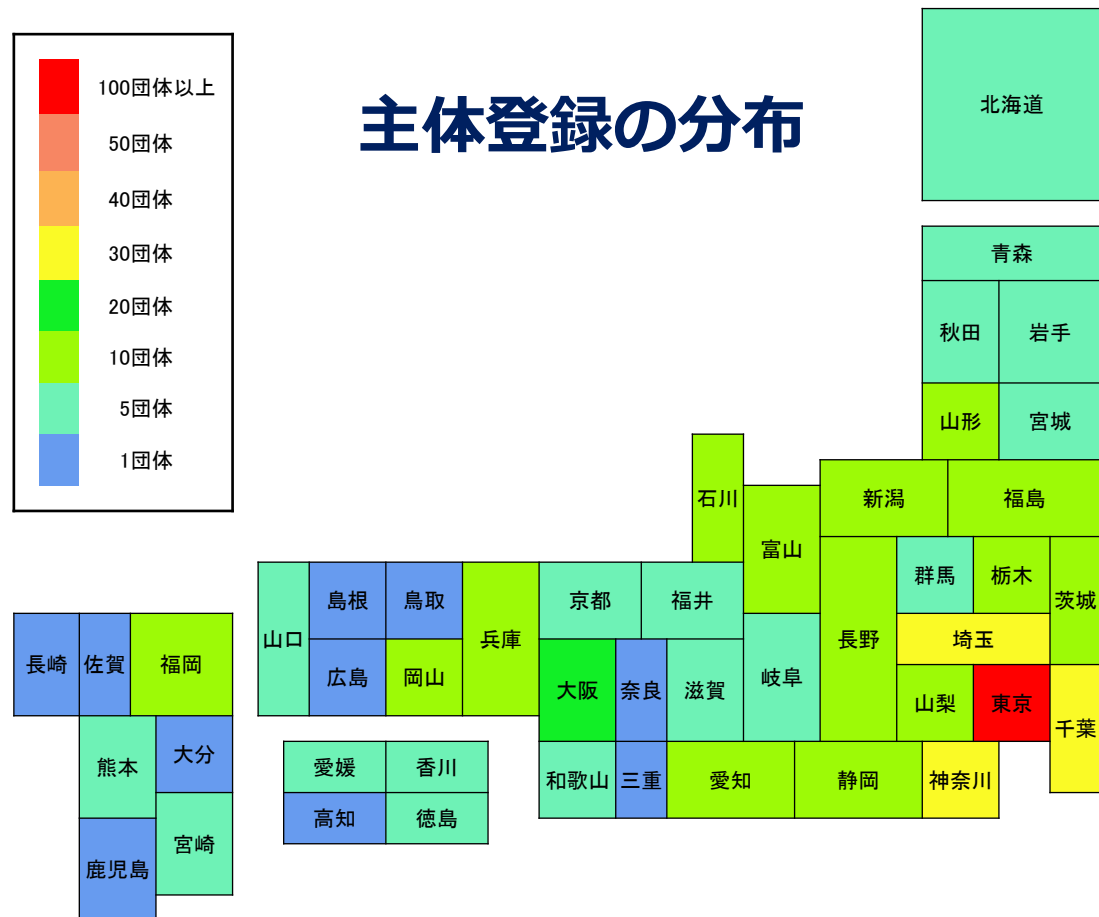
東京2020参画プログラムの現状について

目次

1. オールジャパンでの参画状況
2. 参画プログラムの更なる活性化に向けて
3. 東京2020主催アクション（マスコット投票、メダルプロジェクト、文化オリンピックナイト）
4. アクション事例（経済・テクノロジー）
5. 東京2020 Nipponフェスティバル

1. オールジャパンでの参画状況①

- 2018年1月10時点で、**1,000団体以上**が主体登録を実施し、**約2万件のアクション**を認証
- 全ての都道府県から主体登録※があり、全国へと広がる認証アクションへの参加人数は**1千万人**



沖縄

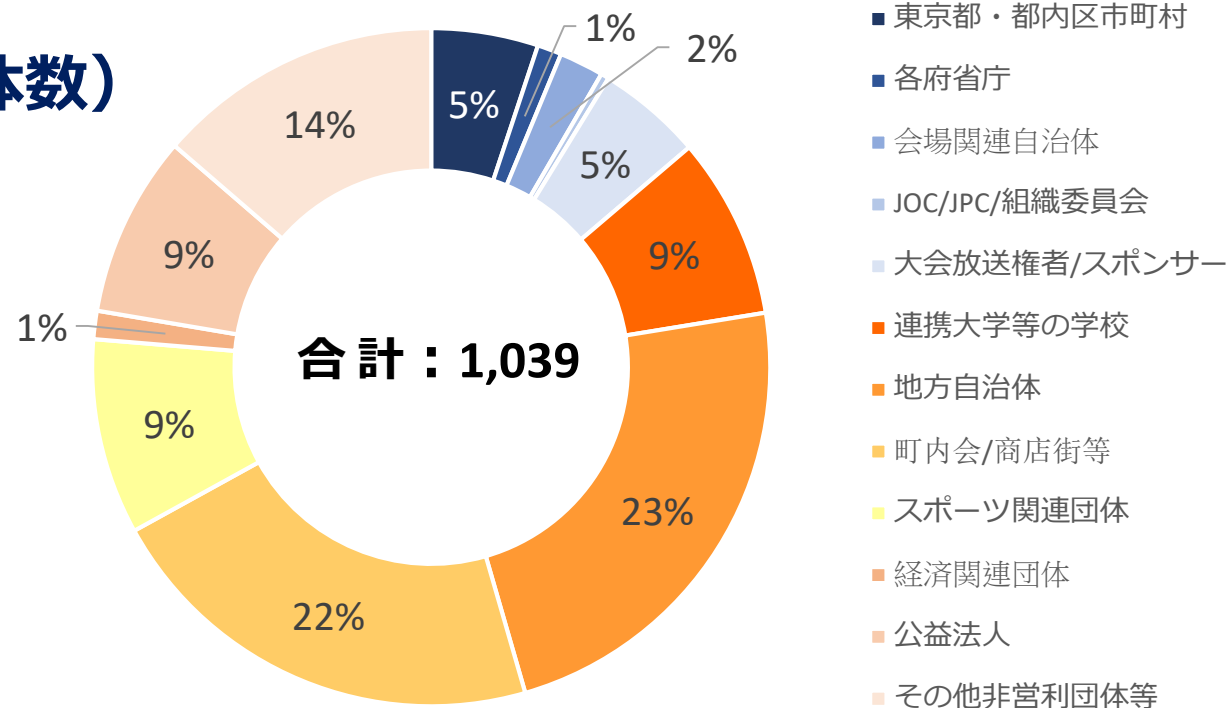
※都道府県に所在する団体からの主体登録

沖縄

1. オールジャパンでの参画状況②

- 応援プログラムの本格開始後（2017年7月～）、全国の市町村や町内会等からの主体登録数が拡大
- よういドン！スクールについても、開催都市、会場関連自治体のみならず全国へ拡大中
（1月10日時点の認証校数： **4,589校**）

主体登録数（団体数）



※各データは2018年1月10日時点の認証数

2. 参画プログラムの更なる活性化に向けて①

■ホストタウンの活動の参画プログラム化

- ホストタウンに登録された自治体に、より東京2020大会とのつながりを持ちながら事業を推進してもらえるよう、内閣官房にてホストタウンに登録された自治体による要件を満たすイベント・事業を「**ホストタウンアクション**」として、**東京2020参画プログラムに認証**

例) 大会等に参加するために来日する選手等との交流

日本人オリンピック又はパラリンピアンとの交流

相手国との文化的交流を図り、地域の活性化を推進するイベント 等

- **ホストタウンアクションに作成された参画プログラムマーク**を提供



マスコット小学生投票

マスコット最終候補 3 案

ア



イ



ウ



12/7 発表会の様子



- 2017年12月7日、渋谷区の加計塚小学校において、マスコットの最終候補案 3 案を発表
- 発表された 3 案については、12月1日のマスコット審査会において制作過程の確認及び国内・国際商標調査がすべて完了したものであるとして、承認を得たもの

3. 東京2020主催アクション① (マスコット投票)

大会とつながる

- 2017年12月11日より、全国の小学校の各クラスを舞台としたマスコット小学生投票がスタート。投票は2018年2月22日まで実施し、2月28日に投票結果を発表予定。正式発表は8月頃予定。
- 各小学校の現状の参加状況 (2018/1/22時点)

13,985校が事前登録 (全国約2万1千校の小学校のうち、66%)
5,141校、60,105学級が投票済
195自治体が投票宣言を実施



東京都飛田給小学校の様子



東京都けやきの森小学校の様子



福島県吉井田小学校の様子

3. 東京2020主催アクション② (メダルプロジェクト)

大会とつながる

持続
可能性

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト



プロジェクトの現状

回収拠点と実績 (2017年4-10月累計)

NTTドコモ：約**178万台の携帯電話等** (全国約2,400店舗のドコモショップ)

自治体：約**1874トンの小型家電** (全国1262自治体、全国累計6023か所)

- オリンピック・パラリンピック大会史上初の取り組みとして国内外で反響
- 2017年4月の開始以降、参加自治体数も順調に増加、全自治体の約7割が参加
- 回収は概ね想定どおり
- 今後の対応として、引き続きプロジェクトの周知・PR活動を行うとともに
銀をより多く含むPCなどの回収強化にも取り組んでいく

3. 東京2020主催アクション③

文化
オリンピック

文化オリンピックナイト

- 実施日：2017年11月26日（日） ○場所： 東京駅前 行幸通り
- 主 催：東京2020組織委員会、文化オリンピックナイト実行委員会
- 後 援：東京リリッック競技大会・東京パ・リリッック競技大会推進本部、文化庁、復興庁、東京都
- 内 容：

Part1 TOKYO2020 DIALOGUE

➤ 東京2020 Nipponフェスティバルに向けてのトークセッション

【登壇者】市川海老蔵(東京2020組織委員会 文化・教育委員)、澤邊芳明(クリエイティブディレクター、東京2020組織委員会アドバイザー)、草刈民代(女優・東京2020組織委員会顧問)
【モデレーター】宮本亜門(演出家)

Part2 TOKYO2020 ALL JAPAN CONCERT

➤ 2020年に向けて、「ALL JAPAN」で取り組むことをコンセプトに、多様なアーティストとオーケストラが、高校生や子ども達とともに作り上げるコンサート

【企画・構成】宮本亜門 出演】ゆず(ミュージシャン)、森谷真理(ソプラノ歌手)、宮本笑里(バイオリニスト)、鈴木瑛美子(ゴスペルシンガー)、MIYAVI(ミュージシャン)、大前光市(義足ダンサー)、上田秀一郎/ はせみきた(太鼓：英哲風雲の会)、玉野祥太/ 三浦桜来(空手家ダンサー) 福島県立福島明成高等学校合唱部、宮城県石巻好文館高等学校音楽部、東京都立狛江高等学校ダンス部、インターナショナルスクールの子も達



4. アクション事例（経済・テクノロジー）

経済・
テクノロジー

東京2020公認プログラム 「パラスポーツエンターテイメント」 at CEATEC JAPAN 2017

パラリンピック×テクノロジーのアクション

- 実施日：2017年10月3日（火）～10月6日（金）
- 主 催：東京2020パラリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- 内 容：パラスポーツのテクノロジーによる体験

【主催者報告】

パラスポーツエンターテイメントという、パラスポーツ（車いす陸上・ボッチャ）をデジタルテクノロジーでエンターテイメントとして体験してもらうブースを設けました。特に、パラスポーツを知らない女性や学生が「面白そう」という感覚で体験をする様子が多く見られ、体験をした後にパラスポーツであるということを理解し、興味を持ってもらうという機会になっていました。今後も、2020年を契機にパラスポーツが一般の生活に溶け込むような社会になることを目指していきます。



TOKYO 2020

4. アクション事例（経済・テクノロジー）

経済・
テクノロジー

IMAGE『多様性』2020 :
多様性を考えてICTが出来ること ～2020年に向けて～

バリアフリー×テクノロジーに関するアクション

○実施日：2017年3月31日（金）

○主 催：富士通株式会社

【主催者報告】

2020年に向けて、『「心のバリアフリー」を実現するにあたり、ICTはその課題を解決する事が出来るのか』をテーマに、障がい学／LGBT／メディア／ICTなどの切り口から、業界オピニオンリーダーによるパネルディスカッションを実施しました。参加者からも発言いただき、活発な意見交換が展開されました。



5. 東京2020 Nipponフェスティバルについて

東京2020大会におけるフェスティバルの位置づけ

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 Nipponフェスティバル
の展開

- ・大会の盛り上げを最大化
- ・歴史に残るプロジェクト
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信



聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

フェスティバルの名称について

東京2020大会

オール
ジャパン

祝祭感



“ 東京2020 Nipponフェスティバル ”

東京2020大会とロンドン2012大会との対比

	東京2020大会	ロンドン2012大会
名称	東京2020 Nipponフェスティバル	London 2012 Festival
会期	2020年4月頃～9月6日	2012年6月21日～9月9日 (約12週間)
プログラム数	東京都・政府をはじめ 地方自治体等との連携により 全国で多くのプログラムを展開予定	約300プログラム
聖火リレー との連携	連携によりプログラムを 全国へ展開	なし

フェスティバルが目指す姿

参画

- 文化の祭典として、全ての人々が日本代表として参画でき、祝祭感のあふれるフェスティバルを目指します。

日本らしさ

- 脈々と続き、洗練されてきた私たちの文化を、オリンピック・パラリンピックの精神と共に様々な形で世界に示します。

卓越性

- オリンピック・パラリンピックならではの、前例にとられないプログラムを展開し、世界を驚かせます。

多様性

- 障がいの有無や人種の違いなど、それぞれの個性を認めた上で、分け隔てのない社会を目指します。

レガシー

- 新しいパートナーシップの誕生や若いアーティストの台頭、海外における日本のプレゼンス向上等、大会後のレガシーを創出します。

今後コンセプト（キャッチフレーズ等）を制作予定（例）Have Fun！

4つの物語①：聖火リレーとともに始まる祝祭感 - キックオフ -

文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック

聖火とともに祝祭感あふれるプログラムを
オールジャパンで展開
～都道府県とも連携し、全国で実施～



2020年、
私たちの文化で世界を驚かそう。



様々な背景を持つ人々が交じり合い 分け隔てのない社会を目指す



4つの物語④：誰もが参画できるフェスティバル

東京にいなくても
オリンピック・パラリンピックに参画できる
全員が日本代表



フェスティバルのロゴマーク制作について

ロンドン2012大会では…



ロンドン大会のマーク

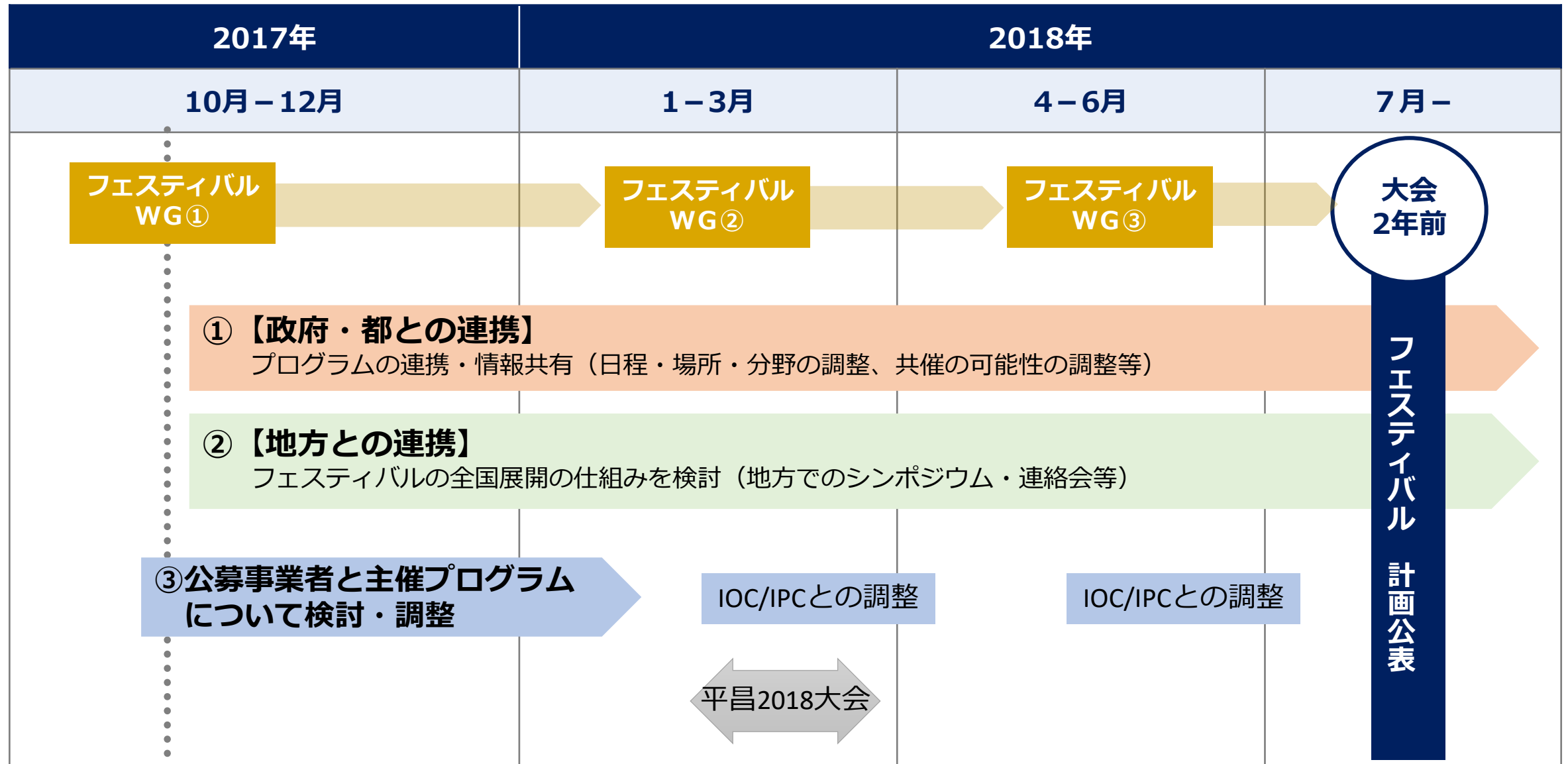
左2つ：エンブレム 右：フェスティバルロゴマーク

- エンブレムから派生したロンドン2012フェスティバルのマークを制作
- 組織委員会のほか、参画した多くの団体がマークを使用し、全国への広がりをみせた

- ▶ 東京2020大会では、フェスティバルの象徴となり、全国へ広がりのあるロゴマークを目指す
- ▶ エンブレムの制作者でもある野老朝雄（ところあさお）氏に制作を依頼



検討スケジュール





テクノロジーサービス局の取組み

平成30年2月2日

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
テクノロジーサービス局

1. レガシーに関わる検討テーマの状況

① スポーツ観戦を進化させるためのテクノロジー活用

- 大会用モバイルアプリ、大会期間中Webサイト、などを含めた**総合的なデジタルソリューション計画を策定中**。
 - ・ 「ソーシャルメディアの一層の活用」「バリアフリーマップ」「大会運営データのオープン化」「多言語対応の計画」など
 - ・ 関連テーマでの“東京2020アイデアソンVol.2”を本年3月に開催予定

② スポーツ振興のレガシーを目指したCRM基盤

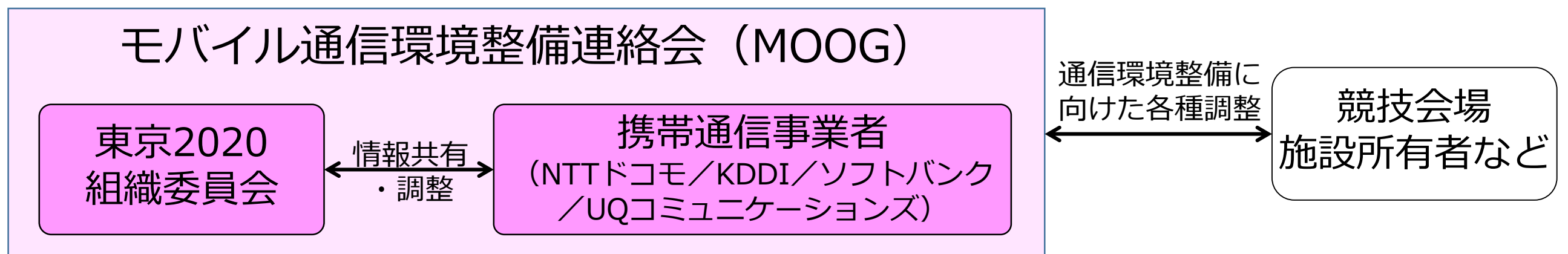
- 大会本番用のID・CRM基盤開発に着手。
 - ・ 「今夏のボランティア応募開始」「来年のチケット一般販売開始」などを控え、基盤整備を加速中。

③ 競技会場で整備すべきICT環境とレガシーとしての利活用

- 大会本番に向けた『**携帯電話の通信環境整備ガイドライン**』『**周波数利用ガイドライン**』『**周波数基本計画**』を発表（2017.11.8）。
 - ・ <https://tokyo2020.jp/jp/games/plan/environmental-arrangement/>
- 競技場Wi-Fi環境の整備に関しても、何らかの指標を公表するべく準備中。

携帯電話の通信環境整備ガイドラインとは？

- 観客および大会関係者が、大会期間中に、できるかぎりストレスなく、携帯電話による音声通話およびデータ通信ができる環境を、会場および会場周辺に整備するためのガイドライン。
- 2016年7月に設立したモバイル環境整備連絡会 (Mobile Operators Olympic Group: MOOG)のもとで、議論・調整してきた結果をまとめた指針。
 - 音声通話については、5人に1人の割合のユーザーが同時に電話をしてもつながることを目標とする。
 - データ通信については、すべてのユーザーがいつでもデータ通信ができるよう100%の接続を目標とする。また、混雑時以外ユーザーが動画コンテンツ等を快適に利用できることを目標とする。
- 今後、継続的に整備状況について関係機関どうしで情報共有するとともに、ガイドラインの細部について年一回ベースで見直し予定。



周波数基本計画とは？

- 大会関係者が使用する大量の無線機器が、混信なく正常に運用できるよう、周波数利用の基本計画を定めたもの。
 - 組織委員会が調達する無線機器（1万台以上を想定）のほか、London2012大会では約2万台、Rio2016大会では約3万台の無線機器が、メディア・放送・競技関係者などにより持ち込まれた。
- 今後の主な予定は以下の通り。
 - 周波数割り当て：「割り当て可能周波数を詳細化した周波数マップの公表」（2018年夏頃）／「周波数申請受付開始」（2019年秋頃）／「周波数の審査・承認通知」（2020年春頃）
 - 組織委員会による無線機器調達：「無線システム設計」（～2018年3月）／「無線システムの建設・調達」（2018年6月～2019年3月）／「実運用開始」（2019年6月テストイベントから導入）

大会で使用する無線機器の種類

① 放送関連

- 放送中継を行うための無線
- メディアが取材等で利用する無線
- 事例（ワイレスカメラ／ワイレスマイク／映像中継／放送素材伝送／国際放送伝送）

② 競技関連

- 時間計測や判定などの競技運行に使用する無線
- 各国選手団が持ち込む無線
- 事例（審判間連絡用無線／選手団用無線／計測データ／選手管理データ）

③ 大会運営関連

- 競技場内や競技場間での運営側スタッフの連絡用の無線
- 事例（大会運営用連絡無線）

<振り返り> 経済・テクノロジー レガシーコンセプト

資料 4

(本日の議事ポイント)

テーマ	経済		テクノロジー	
	レガシーの コンセプト	課題	レガシーの コンセプト	課題
<u>ジャパン ブランド の復権</u>	<u>高性能経済</u>	生産性革命	<u>感動の共有</u>	最先端の映像伝達技術を駆使した魅力ある演出
		生活で実感できる高付加価値		多言語コミュニケーションの推進
		高度な技術力・高品質な製品のアピール		スポーツとICTの融合
		金融インフラ（技術）の整備	<u>For All</u>	先進的なバリアフリー技術のショーケース化
	<u>底力の発揮</u>	地方の魅力全開		ロボットの活用
		起業力・イノベーション力の開花		ロボットやICTを活用した優しくスマートな居住空間・都市空間
		多様な人材の活用	<u>高信頼・ 高品質 の安全</u>	高信頼・高品質なサイバーセキュリティの推進
	<u>高齢化先進国 への挑戦</u>	多言語・バリアフリー対応		電力供給の信頼性
		医療やケア・介助等のアピール		柔軟かつ強固な防災・防犯
	<u>水素社会の 構築</u>	多言語・バリアフリー対応	<u>水素社会の 構築</u>	水素技術の活用
		医療やケア・介助等のアピール		ショーケース等による演出

本日で意見をいただきたい点

議事3：「ジャパンブランドの発信」に向けた検討

- 日本の選りすぐった技術のショーケースにおける、有効的な見せ方や発信の方法について
(例：展示会をVR映像で撮影。会場外からも参加できる仕組み)
- 日本が発信すべき選りすぐった技術について
(例：ロボット大国として、最先端のロボット技術を発信すべき)
- その他、自由なご意見・アイデア



1000日前イベント等による プロジェクトマッピングを活用した取組

東京2020オリンピック・
パラリンピックまで、あと

1000日。

1000 Days to Go! の取組



関係者へ1000日前を記念した事業実施と共通メッセージ活用を呼び掛け、全国で機運醸成を行う。

1000日前関連プログラム

全国で実施の参画プログラムやパートナーアクティベーションを、1000日前関連プログラムとし、連携感を高めるとともに、キャンペーン特設サイト等を活用した広報支援を実施。

【1000 Days to Go!入りの参画プログラムマーク】



【1000日前関連プログラムの対象】

- ①パートナーアクティベーション
- ②特設サイト掲載申請 or 上記マーク使用の参画プログラム
- ③協力 or 共催名義付与プログラム

わたしの参加宣言キャンペーン

「みんなの1000日後の姿を宣言しよう！」をテーマに、Twitter、2020 IDを使ったオープンキャンペーンを実施。

スペシャル体験賞（計5名様）

- ①東京2020大会マスコットがやってくる！（1名様）
- ②東京2020大会メダル発表を目撃＆記念撮影！（1組2名様）
- ③選手と同じ食事が食べられる！（1組2名様）

オリジナルグッズ&パートナー賞（合計1,000名様）

1000 Days to Go! ピンバッジ+パートナー提供賞品のセット

みんなのエンドロール賞（最大1,000名様）

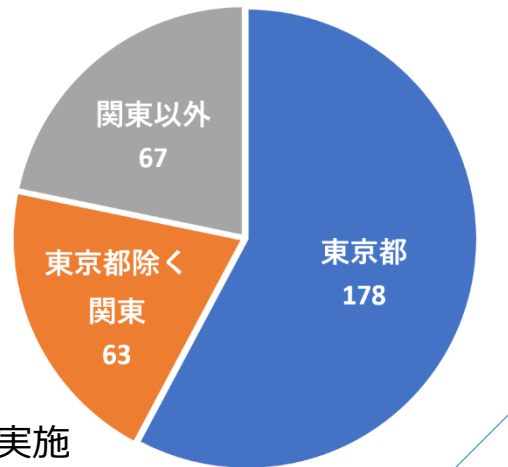
組織委員会公式Youtubeにて公開の
「1000 Days to Go! オフィシャルムービー」
のエンドロールに、参加者のお名前を掲載



1000日前関連プログラムの実績

(1) 件数

全国で
合計308の
関連プログラムを実施



JXTGエネルギー
「ENEOSスポーツ
フェスティバル 2017 in根岸」



東京ガス
「豊洲ユニバーサルフェスタ」

三井不動産
「日本橋シティ
ドレッシング」



※左より
YOYOGI CANDLE 2020実行委員会
(幹事社：NTT・NTTドコモ)
「YOYOGI CANDLE 2020」
読売新聞社・港区「1000日前カウント
ダウンフェスタ～東京2000へ」
東武トップツアーズ「1000 Days to
Go! in TOKYO SKYTREETOWN」

(2) 大会パートナーが実施したプログラムの例



パナソニック
(パナソニックセンター東京)
1000日前特別イベント「1000日前」
への思い・今後実施の内容、エンブ
レム・新グラフィックスについて



日本電気 東京2020大会
1000Days to Go!
「さあ、集まろうぜ。」



毎日新聞社
「世界は一つ～東京2020
オリンピック1000日前～」



青山スポーツフェス2017
実行委員会(朝日新聞社ほか)
「青山スポーツフェス2017」

1000日前関連プログラムの実績

(3) 会場関連自治体が実施したプログラムの例



神奈川県・藤沢市

かながわで東京2020大会の感動をともに
～1000Days to Go!～

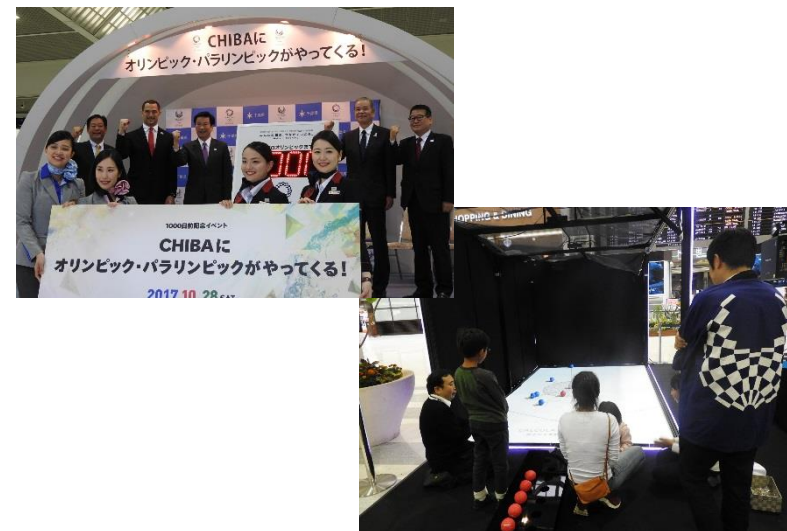


埼玉県・2020オリンピック・パラリンピック ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会・ NHK（さいたま放送局）

埼玉で開催！1000日前イベント
～東京2020オリンピックに向けて～

千葉県

CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！
～東京オリンピック開催に向けた1000日前記念イベント～



北海道・札幌市

オリンピックが北の大地にやってくる！
～みんなのTokyo 2020 1000 Days to Go!～



ふくしまアイデアコンテスト

(主催) ふくしまアイデアコンテスト実行委員会
(主管) 福島大学地域スポーツ政策研究所
(共催) 福島県、福島県教育委員会



YOYOGI CANDLE 2020

プロジェクションマッピングを活用したアクション

○実施日：2017年10月28日(土)および11月29日(水)の二日間

○主催：YOYOGI CANDLE 2020 実行委員会
(株式会社NTTドコモ・セコム株式会社・総合警備保障株式会社・
日本電信電話株式会社・パナソニックシステムソリューションズジャ
パン株式会社)

○内容：プロジェクションマッピングによる機運醸成
ドコモ代々木ビル北面にプロジェクションマッピングで東京2020オリ
ンピック・パラリンピックに関連した動画上映を行い、ポジティブな
ムーブメント形成を目指し、実施。



An aerial night photograph of a city skyline. The city is densely packed with buildings, many of which are illuminated with various lights. In the center of the image, a tall building stands out, featuring a vertical light display that changes colors. The text "LED LIGHTING OF THE BUILDING LINKED WITH PROJECTION MAPPING" is overlaid in white, sans-serif capital letters across the middle of the image.

LED LIGHTING OF THE BUILDING
LINKED WITH PROJECTION MAPPING

3年前
イベント

<参考> みんなのTokyo 2020 3 Years to Go!!

プロジェクションマッピングを活用したアクション

○実施日： 2017年7月24日(月)～7月29日(土)

○場所： 東京都民広場

○内 容：プロジェクションマッピングによる機運醸成

東京都議会議事堂の大壁面にプロジェクションマッピング「TOKYO EXPERIENCE」が映し出され、出演者、観客共に、日本の四季や伝統、文化、そしてアニメやポップカルチャーなど新たな日本、東京の風景の美しさに釘付けとなっていた。

(組織委員会 公式Facebookにて、360度映像をLIVE配信)





<https://www.youtube.com/watch?v=nPqVq1ZEaRY&t=15s>

屋外広告規制に関する検討状況

検討の状況

- 前回の経済・テクノロジー委員会をきっかけにして、内閣府 規制改革推進会議にて議論が開始
- 屋外広告規制の現状を把握し、どう対応するか検討する段階に入る

第5回
経済・テクノロジー委員会
(2017年7月14日)

- 屋外広告に関連する状況を説明（村井委員）

第21回規制改革推進会議
(2017年10月24日)

- 「新しいテクノロジーに対応する規制の改革へ向けて」を説明（村井委員）

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/suishin/meeting/committee/20171024/171024honkaigi01.pdf>

第24回規制改革推進会議
(2017年12月12日)

- 国土交通省都市局、東京都都市整備局からヒアリング

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/suishin/meeting/committee/20171212/agenda.html>

参考：規制改革推進会議委員名簿

議長	大 田 弘 子	政策研究大学院大学教授
議長代理	金 丸 恭 文	フューチャー代表取締役会長兼社長 グループCEO
	安 念 潤 司	中央大学法科大学院教授
	飯 田 泰 之	明治大学政治経済学部准教授
	江 田 麻季子	インテル代表取締役社長
	古 森 重 隆	富士フイルムホールディングス代表取締役会長兼CEO
	高 橋 滋	法政大学法学部教授
	野 坂 美 穂	多摩大学経営情報学部専任講師
	長谷川 幸 洋	東京新聞・中日新聞論説委員
	林 いづみ	桜坂法律事務所 弁護士
	原 英 史	政策工房代表取締役社長
	森 下 竜 一	大阪大学大学院医学系研究科寄付講座教授
	八 代 尚 宏	昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授
	吉 田 晴 乃	B Tジャパン代表取締役社長

【第6回経済・テクノロジー委員会資料】

2050年に向けたニッポンのありたき姿

2018年2月2日

みずほ総合研究所

専務執行役員 チーフエコノミスト
高田 創



1. 2017年度「くみずほ」Oneシンクタンク・日経2020フォーラム」開催概要

1. 概要

日時・場所	2017年12月14日(木)13:00～16:30 於:日経ホール
主催	日本経済新聞社、みずほフィナンシャルグループ
テーマ	2020年からの飛躍～日本の超長期ビジョン～

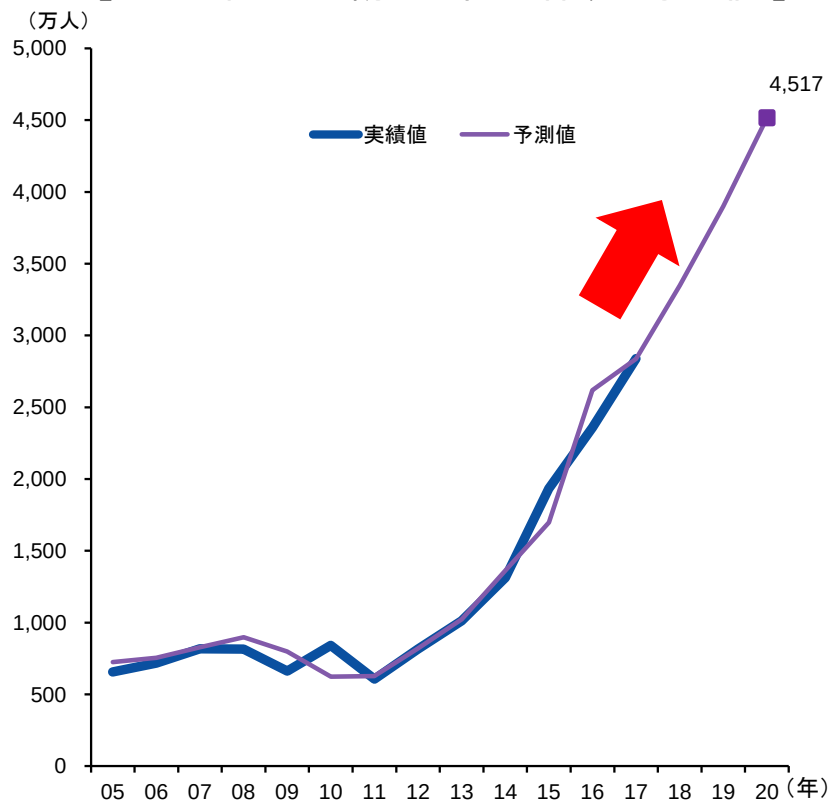
2. プログラム

主催者挨拶	13:00～13:05	みずほフィナンシャルグループ グループCEO 佐藤 康博
基調講演	13:05～13:45	「2050年のニッポン ～課題を乗り越え、輝き続けるために～」 みずほ銀行 執行役員 産業調査部長 牛窪 恭彦
パネル ディスカッション	14:00～15:30	「未来への挑戦 ～社会システムの変化を見据えて～」 【パネリスト】 パナソニック(村瀬 恭通 経営企画部長)、WiL(伊佐山 元 CEO)、東京大学(柳川 範之 教授)、 みずほ総研(高田 創 チーフエコノミスト) 【モデレーター】シンクタンク・ソフィアバンク 藤沢 久美 代表
特別対談	15:40～16:20	「新しいニッポンの創造に向けて」 学習院大学 国際社会科学部 伊藤 元重 教授 みずほフィナンシャルグループ グループCEO 佐藤 康博

2. 2020年までインバウンド需要は増加見通し、供給側がボトルネックとなるリスク

- 足許の良好な経済環境もあり、日本のインバウンド需要は好調に推移。2020年に向けて更なる増加が期待される中、「観光」は日本の成長産業として期待される分野
- ただし、クルーズ船やLCCなど航空路線の拡充が頭打ちとなれば、政府目標達成は困難に

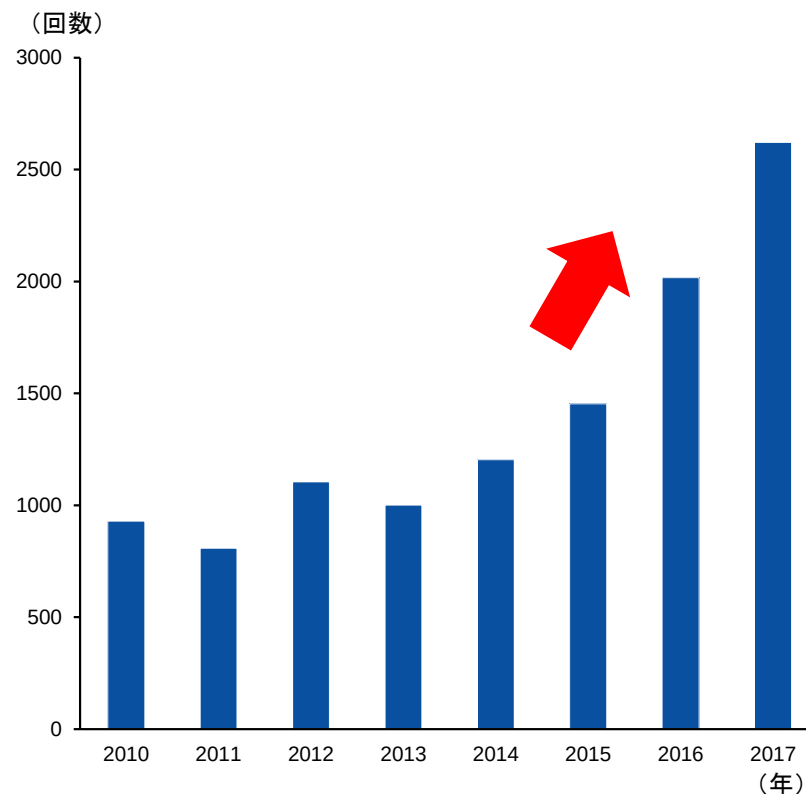
【2020年までの訪日外国人客数の予測値】



(注) 36カ国・地域ベース(2016年の訪日外国人シェアは98%程度)。先行きについては、推計されたパラメータと、IMFの世界経済見通し(2017年10月号)を元に機械的に試算。

(資料) JNTO、IMF等より、みずほ総合研究所作成

【クルーズ船の寄港回数】



(資料) 国土交通省資料より、みずほ総合研究所作成

2. 国内・海外戦略の一気通貫した取り組みが有効に

インバウンドを契機としたアウトバウンド（＝海外需要の取り込み）が本質的な課題

【Ⅳ】海外戦略：帰国後

- ・ 越境ECによる継続販売
- ・ リアル店舗を核とする差別化
- ・ OnetoOneマーケティングの深化

【Ⅰ】海外戦略：出国前

- ・ ECによるアプローチ（自社／提携先）
- ・ SNSなどでの情報発信、来客動機付け
- ・ 訪日前アプローチによるIDの早期取得

帰国後

出国前

旅行中

移動中

【Ⅲ】国内戦略

- ・ 顧客IDの取得
- ・ コト消費・体験型商品や店舗づくり
- ・ サービス強化
- ・ IT活用／メディア連携

【Ⅱ】越境エリア戦略

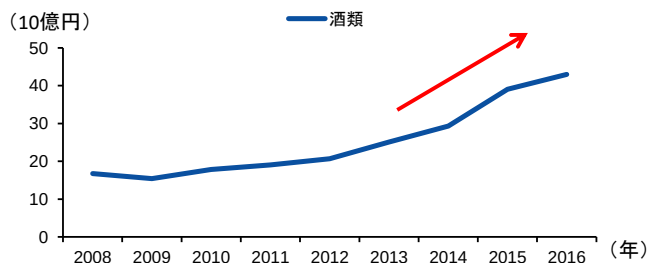
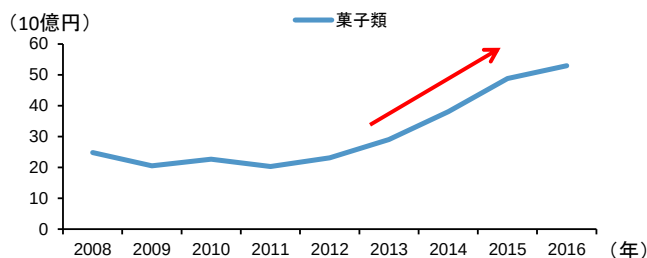
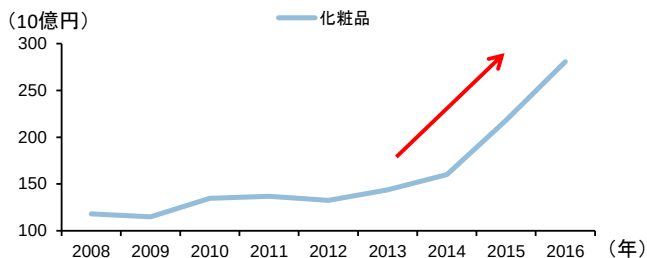
- ・ 出店や提携による免税店市場（DutyFree／TaxFree）への進出
- ・ 来日時の実店舗への来店動機付け

（資料）みずほ銀行産業調査部作成資料を引用

2. インバウンド需要拡大で日本ブランドの認知度が向上して輸出を誘発

- 日本に訪れた外国人に対し、ショッピングを通じて日本ブランドが浸透。帰国後も越境EC等を通じて、日本製品の購入が継続。今後はインバウンドを起点とした日本ブランド売り込み策に商機あり
- 例えば、化粧品や菓子類、酒類などの輸出が増加。2018年予定の免税品拡大策で、単価の低い民芸品や伝統工芸品にもチャンス到来

【化粧品、菓子類、酒類の輸出額】



お米マスク



花餅シリーズ(和菓子)



山崎シェリーカスク



【2018年実施予定の免税品拡大策】

免税品拡大策

＜対象要件の合算を認可＞

改正前

改正後

一般物品 5,000円超

もしくは

消耗品 5,000円超

⇒

一般物品 + 消耗品

5,000円以上

有田焼

熊野筆

箱根寄木細工



(資料) 財務省「貿易統計」、各社公式ホームページより、みずほ総合研究所作成

(資料) 観光庁資料、各社公式ホームページより、みずほ総合研究所作成

2. オリンピック+インバウンド関連で有望な「雪」、「日傘」、「運動靴」

- オリンピック+インバウンドの組み合わせは、日本ブランド浸透の起爆剤に
- 例えば、平昌、北京の冬季五輪開催を見据えた日本の「雪」関連スポット、夏季五輪の暑さ対策を兼ねた「日傘」、TVドラマ「陸王」も記憶に新しい運動靴などが有望

【 スキーリゾート数と人気の雪スポット 】

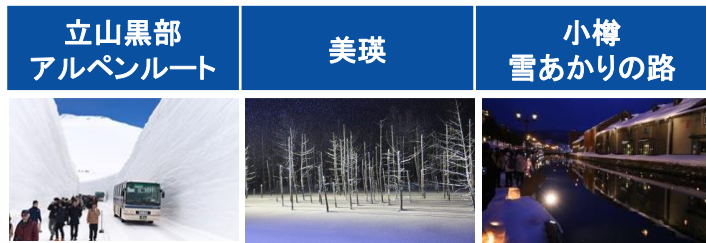
＜スキーリゾート数の世界ランキング＞

1位: 米国 352か所

2位: 日本 279か所

3位: フランス 234か所

＜アジア圏旅行者の人気スポット＞



＜欧米豪旅行者の人気スポット＞



(資料) “2017 International resort on Snow & Mountain Tourism”、
各スポットの公式ホームページより、みずほ総合研究所作成

【 日傘無料貸し出しスポット 】

- ・浜離宮恩賜庭園(東京都中央区)
- ・旧芝離宮恩賜庭園(東京都港区)
- ・小石川後樂園(東京都文京区)
- ・六義園(東京都文京区)
- ・向島百花園(東京都墨田区)
- ・清澄庭園(東京都江東区)
- ・旧古河庭園(東京都北区)
- ・殿ヶ谷戸庭園(東京都国分寺市)



(資料) 日本気象協会ホームページより、
みずほ総合研究所作成

【 運動靴 】

- ・オニツカタイガーは、もともとアシックスの前身ブランドであり、過去のオリンピックでは日本代表選手が使用したこともある。
- ・現在、ファッション性の高いスポーツブランドとして人気があり、訪日客には指名買いされることが多い。

＜オニツカタイガー MEXICO 66 SD(一例)＞



(資料) オニツカタイガー公式HPより、
みずほ総合研究所作成

3. 事業環境の変化に対応、競争力ある産業構造へと転換

- 国内・グローバルベースでの構造変化に伴い事業環境が大きく変容していくことに対して、テクノロジーを最大限に活用し、国内外で競争力を発揮できる産業構造を構築

構造変化を踏まえた日本の産業構造転換の方向性

日本産業の強みと課題

➤強み

- 製造業の生産オペレーション力、技術開発力・技術優位性、高いインストールベース
- きめ細やかなサービス提供力（おもてなし）

➤課題

- プロダクトアウトの商品企画
- サービス業の低生産性（労働集約的）、国内市場依存、規制、公的サービスの非効率

国内基盤の整備・強化

➤流動性の高い労働市場

- マッチング機能強化、高度人材供給・リカレント教育体制整備

➤社会保障制度改革

- 国民負担の抑制、公的サービスの民間提供

➤テクノロジー利活用環境整備

- 社会インフラの維持・整備、規制・制度改革、R&D投資拡大

テクノロジーによる事業環境変化

➤データ収集・解析の高度化

- ニーズの即時把握、成果測定の精緻化、R&Dの高度化

➤生産プロセス高度化・自動化

- 生産プロセス・人件費による差別化余地の縮小、多品種少量生産

➤サービス化

- シェアリング・成果課金ビジネス
- サービス提供の非対面化
- 産業の垣根融解、異業種連携

日本が注力すべき領域

➤ 強みを活かし、事業環境変化に対応

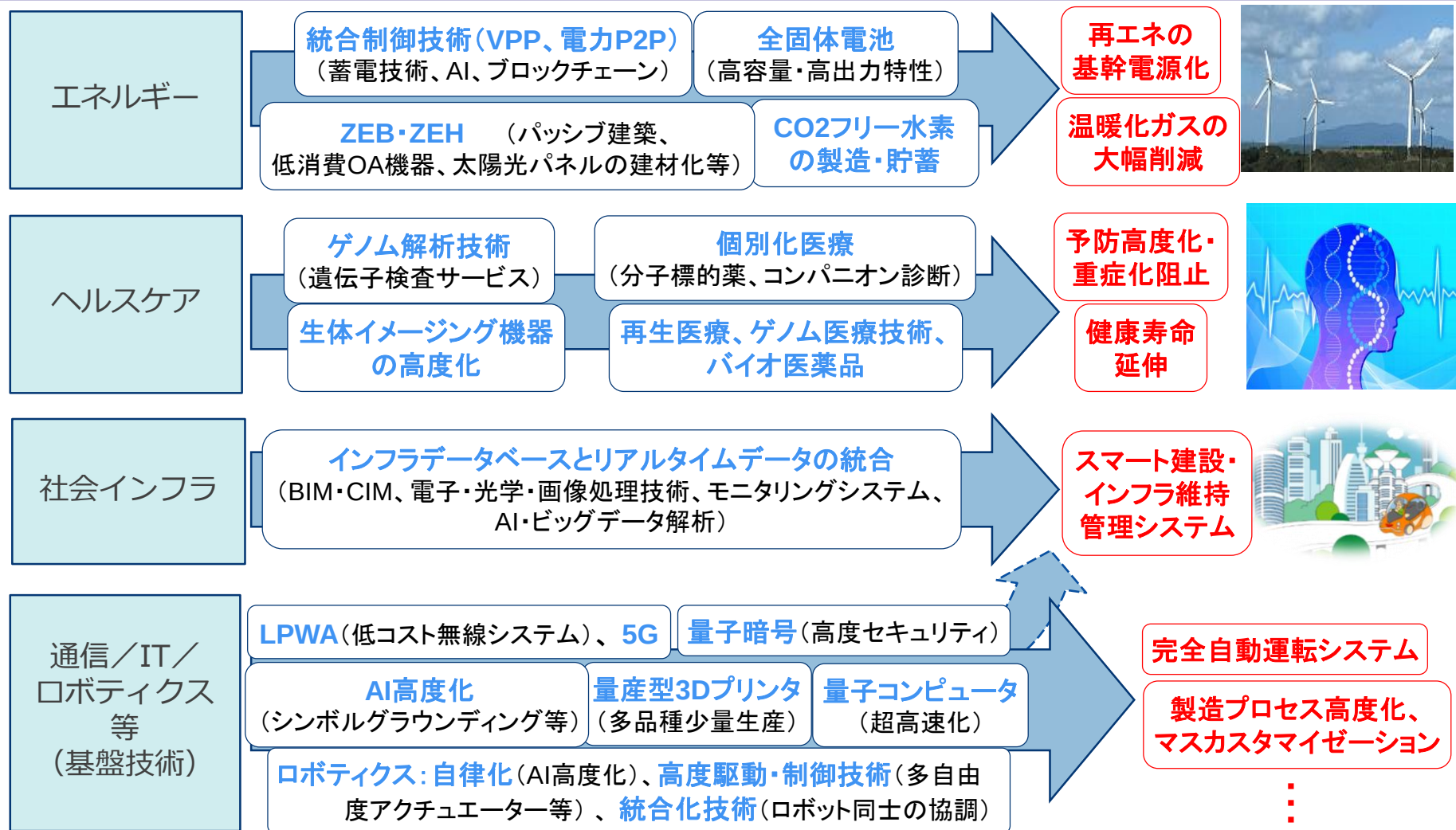
⇒①高機能・先端技術製品の開発・製造、②高品質製品を活かしたサービス事業

➤ テクノロジーを活用して日本の課題へのソリューションビジネス構築

⇒③ヘルスケアの産業化、④対面サービスの高度化、⑤強い地方産業の創出

（出所）みずほフィナンシャルグループ「2050年のニッポン～課題を乗り越え、輝き続けるために～」をもとに作成

4. 2050年迄に「実装化」が想定されるテクノロジー



(出所) みずほフィナンシャルグループ「2050年のニッポン～課題を乗り越え、輝き続けるために～」をもとに作成

東京2020大会では、大会へ導入される技術に加え、日本の課題解決に資するテクノロジーを発信すべき

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、弊社が信頼に足り且つ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、弊社はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。

企 業 合 同 技 術 展 示 会

COUNTDOWN SHOWCASE

未 来 へ の カ ウ ン ト ダ ウ ン 、 は じ ま る

カウントダウンショーケース概要

実施概要

名称

COUNTDOWN SHOWCASE（カウントダウンショーケース）

会期

2017年12月25日～26日

共催

経済産業省、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

後援

東京都、中小企業世界発信プロジェクト推進協議会、東京商工会議所

来場者数

12月25日 / 1200人、12月26日 / 800人 合計2000人

実施概要

ねらい

2020年の日本での提供を目指した最先端技術を一堂に集め、
空港⇒交通⇒街⇒スポーツ⇒観光の一連のストーリーでお客様に体験

AIRPORT



入国

〈出展コンテンツ例〉

- おもてなしアプリケーション
- ダイバーシティ・コミュニケーションツール
- カスタマイズ対応デジタルサイネージ
- 多言語翻訳機

TRAFFIC



街中移動

〈出展コンテンツ例〉

- FCV
- 水素ステーション
- EV
- 歩行支援モビリティ

SPORTS



競技観戦

〈出展コンテンツ例〉

- 接触型生体データ計測
- ヘッドマウントディスプレイによる遠隔視聴
- 8K映像
- マルチアングル視聴

TOURISM



地方観光

〈出展コンテンツ例〉

- AI技術
- タッチレスゲート
- 介護・生活支援ロボ
- 手話翻訳

CITY



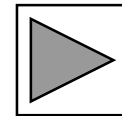
都市

〈出展コンテンツ例〉

- 災害リアルタイム予測
- 全方位監視カメラ
- 水素社会・燃料電池社会
- 土砂災害検知

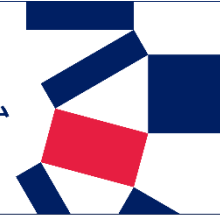
※詳細なゾーンは
資料 8 補足資料①②参照

展示会の様子（動画）





公認プログラム



世界とつながろう ホストタウン

子どもたちによるポスター・映像制作を通じたホストタウンの取組について



内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局

ホストタウンとは

「ホストタウン」とは？

日本の自治体と、2020年東京大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化等に活かしていくもの。ホストタウンに登録されると、特別交付税措置として交流活動の1/2の支援が得られる。

○大会参加者との交流

- ・ 大会前後で大会に参加した外国人の選手（オリンピック・パラリンピアン）と交流



○大会参加国・地域の方々との交流～外国を知り日本を伝える

- ・ 相手国からゲストを招き、歴史や文化を知る
- ・ 児童・生徒同士の交流（お互いの文化を紹介）
- ・ お互いの祭りやイベントに参加し合う



○日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

- ・ 過去にオリンピック、パラリンピックに参加したことのある方々との交流（競技体験、講演等）



登録数211件、自治体数282、相手国・地域数82

子どもたちによるポスター・映像制作を通じた取組を行なった自治体

- 野田村・静岡市（台湾）

野田中学校、安倍川中学校生徒が台湾を訪問し、陸上代表選手、ロータリークラブの方々にインタビューを行いポスター制作。完成したポスターを地元や台湾の方々などに紹介。

- 飯舘村（ラオス）

飯舘中学校生徒が現在の仮設校舎を離れ、4月から村の新校舎に戻るのにあたり、「感謝」をテーマに旧校舎や地域を素材としたポスターを制作。完成したポスターを地元やラオスの方々などに紹介。

- 徳島県（ドイツ・カンボジア）

徳島商業高等学校生徒が、徳島県の農産物等の生産者などにインタビューを行い、PVを制作。完成したPVを地元やドイツの方々などに紹介。

復興「ありがとう」ホストタウンについて（2017. 9～）

被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の自治体を対象に、震災時に支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行い、2020年に向けた交流行う「復興『ありがとう』ホストタウン」を設置

○大会参加国・地域の方々との交流

- ・被災時に現場に入って支援してくれた各国のレスキュー隊員や、支援物資等を送ってくれた方々など、復興に貢献頂いた方々を被災地に招いた交流を行う。
- ・交流の機会に復興のプロセスの説明や、各地の被災地ツアーの参加などを行い、被災地の過去と現在の紹介を実施。

○大会参加者との交流

- ・大会中は、相手国・地域の選手を応援し、**大会後に**大会に参加した相手国・地域の選手（オリンピック・パラリンピアン）に訪問してもらう。

○日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

- ・従来のホストタウンと同様の取組を実施

【2018年1月時点の決定自治体】

- ・岩手県；大船渡市（米国）、花巻市（米国・オーストリア）、**野田村（台湾）**、陸前高田市（シンガポール）、釜石市（オーストラリア）、宮古市（シンガポール）
- ・宮城県；東松島市（デンマーク）、仙台市（イタリア）、亶理町（イスラエル）
- ・福島県；**飯舘村（ラオス）**、南相馬市（ジブチ、台湾、米国、韓国）、本宮市（英国）、北塩原村（台湾）

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県野田村(台湾)

震災時に受けた支援



- ・ 東日本大震災に際し、台湾の台湾佛教慈濟基金会から全被災世帯へ義援金を頂いた。
- ・ 大阪大淀ロータリークラブを通じ台北中正ロータリークラブから中学校に和太鼓5基の提供を受けるとともに、大阪中之島ロータリークラブを通じ台北福齡ロータリークラブから小学校へ楽器やスポーツ用具の支援を受けた。



寄贈された太鼓を使用した演奏会

取り組もうとする事業の概要

- ・ 中学生代表が台湾ロータリークラブを訪問し、感謝を伝え、同クラブや台湾陸上選手へのインタビューを行い、その内容をポスター等で表現し、村民に報告。
- ・ ロータリークラブ、オリンピック、子どもたちに来訪してもらい、復旧復興した街並み、中学校の創作太鼓の演奏をみてもらう。

当面の取組

- ・ まずは、2018年1月に子どもたちが台湾を訪問し、ロータリークラブを訪問。



昔使用していたタイヤの太鼓

復興「ありがとう」ホストタウン 福島県飯舘村(ラオス)

震災時に受けた支援



・ラオスとは、「学校を作るお手伝いをしよう」と子供たちが募金活動を開始し、村もふるさと納税を開始。平成23年2月には職員がラオス・ドンニヤイ村を訪問、絵本を現地の学校に寄贈した。

・震災後は、ドンニヤイ村民が飯舘村のために祈りをささげた。同村中学校、同校長より激励の手紙が送られた。小中学生から激励メッセージ入りのこいのぼりが届けられるなど交流が継続。



飯舘村の支援で建設された学校



激励の鯉のぼり

取り組もうとする事業の概要

・ラオスの子どもたちや在京ラオス大使館の方々を学校行事や村のイベントに招待。

・飯舘村では震災前より、福島県で行われる市町村対抗福島駅伝に毎年参加しており、陸上に関する講演、指導等の交流を実施。



ドンニヤイ村の生徒が村を訪問

当面の取組

・2018年予定されているラオスからの視察団を迎え入れるための準備を実施。

子どもたちによるポスター・映像制作のねらい

●子どもたちをホストタウン特派員する

- 子どもたちをホストタウンの取組の“お客さん”にするのではなく、“担い手”として、特派員となってもらい、交流相手の取材をしてもらい、その成果をポスター・映像にしてもらい、地域の方々に紹介する

●地域住民の方々にホストタウンの取組を知ってもらう

- ホストタウンとはどういうものか、ホストタウンで何をやっているのか、ホストタウンの交流相手の国がどういうところか、交流する相手がどういう人なのかを「見える化」する

●地域の盛り上げを図る

- 東京大会に出場する選手を身近に感じ、応援しようという機運を盛り上げる
- 真の意味での参加国・地域の方々との交流を図る
- ホストタウンの取組を通じて、自分たちの地域を見直す機会としてもらう

野田村・静岡市 連携プロジェクト2017 ～「だから、ありがとう」～

<プロジェクトの概要>

- ・ 野田村では、桶太鼓や楽器を寄贈して下さった台北中正ロータリークラブ・台北福齡ロータリークラブの方々に対し、直接感謝の気持ちを伝えると共にインタビューを行い、ありがとうの気持ちを表現するポスターを作成して国内外に広く発信する。
- ・ 台湾陸上チームとの事後交流を図ることとし、既に事前キャンプを行っている静岡市と連携し、台湾陸上選手との交流を行い、選手のインタビューをともに行い、地域の人たちに、台湾陸上選手の紹介を行い、東京大会で応援しよう！という機運を盛り上げる。

○2017年10月静岡市で行われた台湾陸上チームの合宿に小田村長が駆けつける



台湾陸上協会陳副秘書長と野田村の
小田村長が意見交換



野田村産天然わかめを台湾選手が宿泊する
ホテルの朝食に提供



野田村・静岡市 連携プロジェクト2017 ～「だから、ありがとう」～

【プロジェクト実施内容】

○台湾訪問(2018/1/5(金)～1/10(水))

台北中正ロータリークラブ・台北福齡ロータリークラブへの訪問

・野田中学校の生徒が訪問し、当時の支援への感謝を伝え、ロータリークラブ方々の思いをインタビューする。

台湾陸上チームとの交流

・すでに台湾陸上チームのホストタウンとなって事前キャンプの受入れを行うことになっている静岡市の中学生とともに台湾スポーツセンター(高雄)を訪問し、選手との交流を行うとともに、選手にインタビューする。



○ポスター制作のためのワークショップ

野田村;2017/12/9(土)、10(日)、2018/1/20(土)、21(日)

静岡市;2017/12/6(水)、2018/2/15(木)、16日(金)

映像のプロに学ぶ

・東京2020組織委員会から映像のプロである東京2020組織委員会 経済・テクノロジー委員を紹介いただき、ポスター制作のためのワークショップを開催。

講師:合同会社アースボイスプロジェクト 代表社員 榎田竜路氏

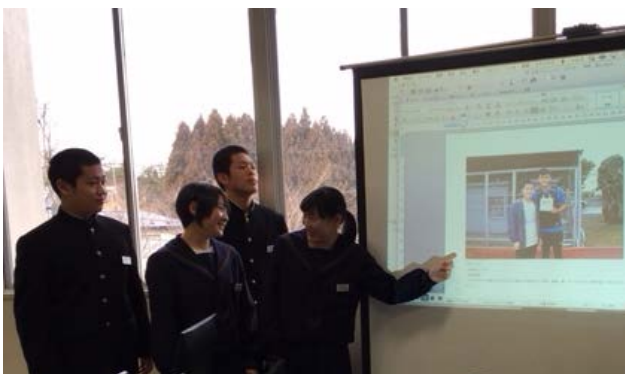
機材協力:キヤノン/キヤノンマーケティングジャパン

ポスターの制作

・台湾訪問の際のインタビュー、ワークショップでの学びをもとにポスターを制作。村民の皆様への報告会や、台湾ロータリークラブへの報告など、国内外に広く発信する。

今後の予定

- ・2月10日(土): 野田村生涯学習大会で中学生が村民の方々へ報告
- ・2月20日(火): 静岡市長より中学生の作成したポスターの発表、21日(水)中学生による市長・教育長への表敬訪問
- ・2月25日(日): 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局主催の2020年東京大会に向けたホストタウンサミット(仮称)で野田村・静岡市の中学生による発表
- ・今後: それぞれの村市での住民へのPRや台湾側への還元方法についても検討(野田村では三陸鉄道中吊り広告に生徒が作成したポスターを掲示予定)



中学生向け認知開発®講座

ポスター制作ワークショップ概要



代表 榎田竜路

○目的・趣旨：

同ワークショップでは映画の絵コンテの技法を応用し、身近な人、モノ、コトの価値を見つけ、写真と言葉を組み合わせることにより効果的に伝達する技術を身につけていただく講座です。

アースボイスプロジェクトが開発してきた認知開発®・関係開発®手法に基づいた技術や感覚を身につけていただきます。日常から見慣れた風景でも新たな視座でフレームを切り、ファインダーを通せば、驚くほど美しかったことに気づきます。よく見知っている近所の人も、技術に則った深い取材をすれば新たな価値を見出すことが可能です。

未来を担う中学生たちに、地域の魅力に気づき、仲間とともに盛り上げようという風土を醸成することにより、地域創生のきっかけとなれば幸いです。

○ 成果物

写真と文字（キャッチコピー、状況説明のテキスト）を組み合わせたポスター

○各回（第1回～第5回）の内容（通常）

【中学生向け講座カリキュラム】

1. オリエンテーション（伝えるって？伝わるって？）

いろいろなポスターや映像、文章を見せて伝わる構造を理解する。

2. 物語を作る基本を学ぶ（言い換え、見たて、つなぎ変え実習）

宿題：二文字熟語のつなぎ換え

3.～4. 写真撮影実習

宿題：ポスターにしてみたいものを撮影しタイトルと状況説明を考える

5. ポスター製作実習（4の後の宿題を監修しながら作品として仕上げていく）

6. 発表会

以 上

認知開発力育成における生徒の変化

1 生徒の意識の変化 (1)3年生 N.H (GMP 講座受講)

- ・実家のバレイショ経営を支え、発展させるために「農家レストラン」を経営したいという夢を持っていた生徒。
- ・食品加工技術を学び、商品開発の経験を積むために本校食品技術科に入学 ・高校卒業後、レストラン経営のために高校卒業後は「調理師専門学校」への進学を考えていた。
- ・3学年の当初に、「明日の農業コンテスト」に、自分の将来設計を具体的に考えて論文を組み上げて提出。GMP 講座受講の甲斐もあり、自身のプランの価値を客観的に考えられる力、ストーリーを組み立てる力が向上していたこともあり、本人の未来への視座がとても深まった。結果、コンテストは銀賞受賞(5 位相当)
- ・将来のレストラン経営に向けて、本人にとって「本当に必要な学びとは何か」という思考が深まった。その結果、食のプロデューサーを育成するという目標を設定している、中村学園大学栄養科学部・フードマネジメント学科に進路希望を変更。無事に合格することができた。
- ・高校のカリキュラムだけでは、自らストーリーを作り出す力を高めることや、本人の大きな変容のきっかけを与えることは難しかったと考えます。

(2)2年生 N.K

- ・序の制作にあたり、イワシビルのインタビューに参加。
- ・知っている先輩が就職している職場だが、店長のインタビューを通じて、イワシビルの魅力・理念等を本当に理解することができ、本格的に就職を希望するようになる。
- ・地域との繋がりの良いモデルが連鎖しつつある。

(3)1年生（食農研究部5名）・GMP 講座を受講するのに、1年生が最適だと気付かせてくれた。 ・バイアスにかかっていない1年生のほうが、認知開発力に対する感受性が高く、講座を受講することによる教育効果・生徒の気づきはさらに高まる傾向にある。

2 就職指導のあり方について

現状としては求人票のスペック情報主体の進路選択および指導から脱却できていない。イワシビルの例のように、地域の事業所が、生徒や学校と繋がる機会を更に増やす必要がある。